

ぬちどう宝

八重瀬町立具志頭中学校二年 伊敷 実花

日差しが礎を照らす
今年もこの日が訪れた

礎に刻まれた

あの人が懸命に生きた証を目の前に

涙が溢れるその瞳には

一体、何が見えているのだろう

七十九年前のあの日

まだ幼いおばあを庇い

銃声と共に儚く散った

命と日常

薄暗い壕の中

頼りない温もりさえも

無常に消え去り

赤子の死に気づく母

まだ終わることのない

凄まじい爆音

まだ途切れることのない

悍ましい黒煙

ただ ただ

明日の見えない暗闇を

走り逃げ惑う人々

戦争によって

音を立てて崩れた日常

今、残された記録の中には

一面性だけの痛みや悲しみ

それは史実か真実か

歴史を誤認してしまう

可能性

しかし、今はもう聞くことができない

戦争体験者のおばあは

私が生まれてすぐ

亡くなった

だから

父から戦争の話を伝え聞いた

戦争の話

一家全員亡くなった人もいること

おばあが避難が遅れていたなら

今の私もいないこと

おじいさんが軍人として戦争に行ったこと

沖縄と日本本土の間には

戦争に対する埋めようのない

温度差

終戦してもなお見つかることのない

多くの遺骨

本土復帰後に残されたのは

世の混乱と多くの基地

決して

この悲劇が繰り返されぬよう

語り継いでいかなければならない

一面性だけでなく

多様な視点からの痛みや悲しみを

忘れてはならない

今でも、戦争で命が奪われている

国があることを

今こそ

沖縄の「ぬちどう宝」の心で

平和を守るため

受け継いだ教訓を胸に刻み

私たちは立ち上がる。